

## 2018年8月期上期 決算サマリー

連結業績

(億円)

	2017年8月期		2018年8月期			
	上期実績	通期実績	上期実績 (2017/9~2018/2)		通期予想 (2017/9~2018/8)	
	(2016/9~2017/2)	(2016/9~2017/8)	前年同期比	前年同期比	前期比	前期比
売上収益	10,175	18,619	11,867	(+16.6%)	21,100	(+13.3%)
売上総利益 (売上比)	4,942 48.6%	9,092 48.8%	5,856 49.3%	(+18.5%) (+0.7p)	-	-
販管費 (売上比)	3,654 35.9%	7,252 38.9%	4,036 34.0%	(+10.4%) (▲1.9p)	-	-
事業利益 (売上比)	1,287 12.7%	1,840 9.9%	1,819 15.3%	(+41.4%) (+2.6p)	2,450 11.6%	(+33.1%) (+1.7p)
営業利益 (売上比)	1,306 12.8%	1,764 9.5%	1,704 14.4%	(+30.5%) (+1.6p)	2,250 10.7%	(+27.5%) (+1.2p)
税引前四半期利益 (売上比)	1,476 14.5%	1,933 10.4%	1,651 13.9%	(+11.9%) (▲0.6p)	2,170 10.3%	(+12.2%) (▲0.1p)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	972 9.6%	1,192 6.4%	1,041 8.8%	(+7.1%) (▲0.8p)	1,300 6.2%	(+9.0%) (▲0.2p)

## グループ事業別業績

(億円)

		2017年8月期		2018年8月期	
		上期実績	通期実績	上期実績 (2017/9~2018/2)	
		(2017/9~2018/2)	(2017/9~2018/8)	前年同期比	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	4,551	8,107	4,936	(+8.5%)
	事業利益 (売上比)	695 15.3%	967 11.9%	888 18.0%	(+27.8%) (+2.7p)
	営業利益 (売上比)	687 15.1%	959 11.8%	887 18.0%	(+29.0%) (+2.9p)
海外ユニクロ事業	売上収益	3,928	7,081	5,074	(+29.2%)
	事業利益 (売上比)	498 12.7%	762 10.8%	808 15.9%	(+62.3%) (+3.2p)
	営業利益 (売上比)	487 12.4%	731 10.3%	807 15.9%	(+65.6%) (+3.5p)
ジュー事業	売上収益	977	1,991	1,058	(+8.3%)
	事業利益 (売上比)	74 7.6%	137 6.9%	90 8.5%	(+22.0%) (+0.9p)
	営業利益 (売上比)	74 7.6%	135 6.8%	91 8.6%	(+23.3%) (+1.0p)
グローバル ブランド事業	売上収益	704	1,410	784	(+11.4%)
	事業利益 (売上比)	29 4.3%	41 3.0%	33 4.2%	(+11.4%) (▲0.1p)
	営業利益 (売上比)	26 3.7%	5 0.4%	▲56 -	- -

### 【決算ハイライト】

#### ■2018年8月期上期の連結業績：計画を大幅に上回る、増収増益を達成

- ・売上収益は1兆1,867億円、前年同期比16.6%増、営業利益は1,704億円、同30.5%増と増収増益。上期で過去最高の売上収益、営業利益を達成。
- ・その他収益・費用に減損損失99億円、金融損益に為替差損69億円を計上した結果、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,041億円、同7.1%増の増益。

#### ■国内ユニクロ事業：上期を通して売上が好調、計画を大きく上回る増収増益

- ・売上収益は4,936億円、前年同期比8.5%増、営業利益は887億円、同29.0%増と増収増益。
- ・既存店売上高は同8.4%増。例年以上の寒さにより、ヒートテック、ダウンなどの防寒衣料の販売が好調。

・在庫処分による値引きロスが減少し、売上総利益率は 0.8 ポイント改善。物流費、広告宣伝費の削減により、販管費比率は 1.9 ポイント改善。

**■海外ユニクロ事業：計画を大きく上回る大幅な増益。全エリアで計画を上回る業績**

・売上収益は 5,074 億円、前年同期比 29.2%増、営業利益は 807 億円、同 65.6%増と、大幅な増収増益を達成。  
・全エリアで計画を上回る業績を達成。特に、北米、グレーターチャイナ、韓国で収益性が改善。米国は赤字幅が大幅に縮小。

**■ジーユー事業：既存店売上高は若干の減収も、営業利益は計画を上回り、増益**

・売上収益は 1,058 億円、前年同期比 8.3%増、営業利益は 91 億円、同 23.3%増と、増収増益。  
・防寒衣料などの実需商品が少なかったため、既存店売上高は若干の減収となったが、店舗数の純増により売上収益は増収。売上総利益率が改善したことで、営業利益は増益。

**■グローバルブランド事業：減損損失の計上により、営業赤字**

・売上収益は 784 億円、前年同期比 11.4%増、減損損失の計上により、営業利益は 56 億円の赤字。  
・セオリー事業は増収も、傘下のヘルムートラングブランドに係る減損損失 10 億円を計上したことから、減益。  
・コントワー・デ・コトニエ事業は、通期でも赤字が継続することが見込まれたことから、減損損失 77 億円を計上。

**■2018年8月期の連結業績予想：上期の業績上ブレを反映し上方修正。50円の増配を予想**

・2018年8月期の連結業績は、上期の業績が大幅に上ブレしたことを反映し、期初予想から上方修正。  
・売上収益 2兆 1,100 億円、前期比 13.3%増、営業利益 2,250 億円、同 27.5%増、親会社の所有者に帰属する当期利益 1,300 億円、同 9.0%増を見込む。  
・1株当たり年間配当金は、期初予想から 50円増額。中間配当金 200円を含み、年間 400円を予想。

\*\*\*\*\*

**業績概要**

**■国内ユニクロ事業：上期を通して売上好調が継続、計画を大きく上回る増収増益**

国内ユニクロ事業の上期の売上収益は 4,936 億円(前年同期比 8.5%増)、営業利益は 887 億円(同 29.0%増)と、増収増益になりました。Eコマース販売を含む既存店売上高は同 8.4%増でした。Eコマースの売上は同 31.6%の増収で、売上構成比は 7.5%へと上昇しています。

例年以上の寒さにより、ヒートテック、ダウン、フリース、スウェット、暖パンといった防寒衣料の販売が好調だったこと、また、生産・物流・販売が連動した精緻な販売計画を策定し、状況に応じて売れ筋商品の在庫をしっかりと持ちつつ、動きの悪い商品は、早めの売価変更を行うなどタイムリーな修正が功を奏したことから、今期の秋冬商戦は好調な販売トレンドが継続しました。為替の社内レートが円安傾向が続いていることで、原価率の上昇は継続していますが、冬物商品の販売が好調だったことから、在庫処分による値引きロスが減少し、上期の値引率は前年同期比で大幅に改善しました。その結果、売上総利益率は、前年同期比で 0.8 ポイント改善しました。売上高販管費率は、特に物流費、広告宣伝費の大幅な削減が寄与し、同 1.9 ポイント改善しました。

**■海外ユニクロ事業：計画を大きく上回る大幅な増益。全エリアで計画を上回る業績**

海外ユニクロ事業の上期の売上収益は 5,074 億円(前年同期比 29.2%増)、営業利益は 807 億円(同 65.6%増)と、大幅な増収増益を達成しました。商品構成の見直し、数値計画の精度の向上、値引きに頼らない商売への転換といった経営改革がグローバルに進んだことにより、売上高営業利益率は 15.9%と、同 3.5 ポイント改善しました。地域別では、全エリアで計画を上回る業績を達成し、特に北米、グレーターチャイナ、韓国で収益性が改善しました。グレーターチャイナ、韓国はヒートテック、ダウンといった冬物商品の販売が好調で、大幅な増収増益を達成しました。東南アジア・オセアニアも引き続き業績が好調に推移しました。夏物商品が好調だったことに加え、トラベル需要を捉えた冬物商品の販売も堅調に推移し、大幅な増収増益となりました。また、米国は地域別での商品

構成の見直し、販売計画の精度の改善によりコア商品の販売が拡大したことから、赤字幅が大幅に縮小しました。欧州も好調なロシア、フランス、英国を中心に欧州全体で既存店売上高は増収となり、大幅な増益となりました。2017年9月に初出店したスペインは11月に2店舗目をオープンし、好調なスタートとなっています。

#### ■ジーユー事業：既存店売上高は若干の減収も、営業利益は計画を上回り、増益

ジーユー事業の上期の売上収益は1,058億円(前年同期比8.3%増)、営業利益は91億円(同23.3%増)と、増収増益になりました。防寒衣料のアイテム数が少なく、実需を取り込めなかったことにより、既存店売上高は、若干の減収となりましたが、出店により、期末の店舗数が前年同期比で26店舗純増となったことから、上期の売上収益は同8.3%の増収となりました。また、収益面では、売上総利益率が改善したことから、営業利益は増益となりました。

#### ■グローバルブランド事業：減損損失を計上し、営業赤字

グローバルブランド事業の上期の売上収益は784億円(前年同期比11.4%増)、営業利益は47億円の赤字と、増収減益になりました。コントワー・デ・コトニエ事業に関わる減損損失を77億円、セオリー事業傘下のヘルムートラングブランドに関わる減損損失10億円を計上したため、営業利益は赤字となっています。

セオリー事業では、セオリーブランドとPLST(プラステ)ブランドの売上が好調に推移し、上記の減損を除いた営業利益は増益となっています。プリンセス タム・タム事業は赤字が継続、J Brand 事業は赤字が縮小しています。

#### ■2018年8月期の業績予想：上期の業績上ブレを反映し上方修正。50円の増配を予想

2018年8月期の連結業績は、上期の業績が大幅に上ブレしたことを反映し、上方修正しました。売上収益は2兆1,100億円、前期比13.3%増、営業利益は2,250億円、同27.5%増、税引前利益は2,170億円、同12.2%増、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,300億円、同9.0%増、基本的1株当たり当期利益は1,274.41円を見込んでいます。

国内ユニクロ事業は、通期で増収増益を見込んでいます。原価率の上昇により、粗利益率は若干の低下を予想していますが、経費削減策を継続し、特に広告宣伝費、物流費、人件費で効率化を図ります。海外ユニクロ事業は、大幅な増収増益の見込みです。特に、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国で大幅な増収増益となり、北米事業(米国・カナダ)は赤字が半減する見込みです。ジーユー事業は増収増益を見込んでいます。グローバルブランド事業は増収を見込んでいますが、上期に減損損失を計上したことから、通期の営業利益は赤字を予想しています。2018年8月期末の店舗数は国内ユニクロで831店舗(フランチャイズ店含む)、海外ユニクロで1,246店舗、ジーユー事業で394店舗、グローバルブランドで984店舗、合計3,455店舗を予想しています。

なお、1株当たり年間配当金は、直近予想から増額修正し、中間配当金200円、期末配当金200円を合わせて400円と、前期から50円の増配を予想しています。

IR情報 <http://www.fastretailing.com/jp/ir/> に決算データや各種リリースなどを開示しております。